

日本の野鳥シリーズ

火の鳥アカショウビン

佐藤 弘

本種を初めて見たのは半世紀以上昔、ブナ原生林の小さな池だった。近くの溪流はイワナの宝庫で、現に10匹ほど釣って今日はこれでたくさんと切り上げたところだった。本種との距離は10mあるかどうかだが、テキは私を無視して池の水面を見つめていた。それにしても全身なんと鮮やかな緋色か。「万緑の叢中に紅一点あり」を絵に描いたようだ。だからこれが家に寄りつくと火事になるといって、追われたこともあったらしい。

なにごとにも例外はあるとはいっても、それだけ目立つのは天敵に狙われやすいし、自分の獲物にも逃げられやすいいいことは何もないはず。よく絶滅せずに命をつないでいるものだ。行く末がちょっと気にかかる。

一方で、増えたカワウが乱暴狼藉をはたしているという。数十年前には数を減らして絶滅を心配されたものが、下水道や河川環境の整備でそこいらじゅうの水質がよくなったことで、餌生物に恵まれて繁栄しているらしい。そのうえ天敵がないというから、まさにわが世の春状態だ。大人しく、その名もウグイ（ハヤ）でも食っているぶんには問題ないが、アユを食い尽くして漁業者を困らせているというから、いまに天罰がくだりそうだ。

本種に脚環をつけ木綿の袋に入れたものをロッカーに収めた。ロッカーの扉には上下に換気の小さなすき間があるだけで、中は真っ暗。鳥を落ちつかせ無駄な体力の消耗を防ぐにはうってつけだ。「記念写真を撮ろうか」と扉を開けてびっくり。袋を突き破り逃走寸前だった。かつてフクロウ類やタカ類・キツツキ類もやった事がない暴れん坊ぶりだ。

本種のクチバシはキツツキ類ほどに頑丈ではないから、新規に自前の巣穴を掘るのは無理で、もっぱら他の鳥の古巣などを利用しているらしい。つまり中古住宅専門だ。中には鳥の巣に限らず、佐渡の民家で軒下のスズメバチの古巣を利用している映像が紹介された。巣内には数羽のヒナがいた。

丸見えなのによくまあカラスに巣を襲われ、卵やヒナに被害がなかったものだと考えて、いや、話の順番があべこべだと気付いた。つまり、賢いカラスは危険なスズメバチの巣にはたとえ古巣でも近寄らない事を、アカショウビンは認識していて、それを逆手にとったと考えたい。まったくの偶然でなければこんな推理がなりたつ。

日程につきましては次号にてご案内いたします。ぜひお時間を作ってください。ご来場をお待ちいたしております。詳しい



毎週金曜 夜8時 NHK「チコちゃんに叱られる」画像

この千支の由来については紀元前一五〇〇年以上に遡ることなので、真相がわかるということとは無理なんでしょうが、本来の意味合いがいつしか忘れ去られ、形骸化されていることや通常使っている言葉の由来もわからずに使っていることが多いことに気づかされるのが、毎週金曜の夜八時からのNHK番組「チコちゃんに叱られる」です。

永遠の5才のチコちゃんという女の子に、MCの岡村隆史とゲストが「〇〇なのは、なんなの？」と質問されて答えられず、とんちんかんな回答をして「ポーンと生きてんじゃねーよ！」と一喝されるといふ場面は面白くもあり、また自分も知らないと一緒に叱られたような気がしてドツキリさせられます。

この番組を見た校長先生がさっそく取り入れ全校生徒の前で話をし、このチコちゃんの決めセリフを言ったときに、思った以上の迫力になり、聞いていた生徒も先生も引いてしまった、という投稿がありました。確かになかなかインパクトのある言葉ですよ。

仕事に置き換えて考えてみると、常に改善点がないか、どうしたらもっと効率よくできるか、という意識で仕事をするのと、単に前からそのようにしていたし支障がでているわけではないからそれで良い、という意識で仕事をするのとでは、スタート時は同じでも当たり前のことから結果が大きく差が出ますよね。

チコちゃんに叱られる！

お客様、新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。今年の千支は「己亥」（つちのとい・きがいの）。「己」は天干（幹）の六番め、「亥」は地支（枝）の十二番めで、この「己亥」の年は「成熟した状況から次の世代に向けて足元を固め、力を蓄積して来たるべき時に備える」年だそう。十二支というと、ネズミ、牛、虎、兎など動物が当てはめられているほうが一般的かと思いますが、十二支を動物に読みなぞらえ始めたのは後の話で、元の十二支の意味は十二年で一周する木星の軌道上の位置をあらわすために任意に作られた年を数える数詞で、元の十二支の意味は十二年で一周する木星の軌道上の位置をあらわすためにも諸説あるようで、なぜこの文字が充てられたかなども真相は不明のようです。ちなみに動物の十二支の中には猫が入っていませんが、海外では猫が入っているところもあり、その場合は兎が抜けていました。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

お客様様
元気通信
むげ



■【百薬の長】

技術営業部 小林 智

私には年末年始、ゴールデンウィーク、お盆休みの年に3回一緒にお酒を飲む20年来の付き合いとなる友人がいます。20代のころはもっと頻繁に一緒にお酒を飲んでいましたが、年を重ねるにつれてお互い忙しくなり、今では年3回となってしまいました。

久しぶりに会っても話すことといえば20代のころと全く変わりなくほぼ他愛のない話ばかりで、自分が成長できていないのではと少し心配になります。

ただごく稀ではありますが、20代のときに「こんな大人になりたい」などと話しをしていたことが話題に上ることもあり、今の自分がそのとき思っていた人間に近づいているか、自身への再確認や戒めになることもあり、貴重な機会でもあります。

「百薬の長」であるお酒を毎晩酌しながら、この貴重な機会をこれからも長く続けていけるよう健康には気を付けようと思うこの頃です。



2019

■【一人ツーリング】

生産部設計 白井 恵介

私の気晴らし方法は一人ツーリングです。

21歳の時に思い立ってバイクを購入して以来、もう8年も同じバイクに乗っております。

最初は大勢でツーリングに行く事に憧れていましたが、周りにバイクに乗っている人が少なく、一人で乗っているうちに、一人ツーリングが止めらなくなりました。

ツーリングといっても、目的地が決まっている事は少なく、ただただ200キロ以上ある鉄の塊を操縦しているだけなのですが、誰にも気を使わず、何も考えず、好きな音楽を聴き、行きたい道を走り、適当に食事をする。この自由な時間がやめられません。

新潟は、晴れの日が少なく、雪が多く降り、バイクには過酷な土地です。寒さを我慢してまでなぜバイクに乗っているのだろうと、たまに疑問に思う事がありますが、なぜか乗りたくなってしまいます。

山梨県まで行き、朝霧の中で精進湖から見た、日に照らされた富士山はとても幻想的でした。

今までもこれからも、頑張っ走りしているバイクに感謝しつつ一人ツーリングを楽しみたいと思います。



親の付添いでフライト 長崎へGO!

生産部 島貴 修一

長崎市への招待状が来た。京都に住む姪が結婚することになり、彼氏の出身地の長崎市で式を挙げるそうだ。ただし福島市に住む彼女の祖父母（私の両親）を連れて行かねばならない。8年程前の3人での台湾旅行の苦労を思い出したが、まあ何とかかなるだろう。

仙台空港の駐車場に車を預けてチェックイン。保安検査では「このトレーにバッグを置いて」「ポケットの中の物も出して」「搭乗券を係員に見せて」などと言いながら無事通過し、伊丹行き6番搭乗口へ向かう。今回は機内でEDカードを3人分書き、食事・飲み物や機内アナウンスの通訳もしたが、今回は国内線だから楽かなと思っていたが甘かった。

搭乗開始。しかし搭乗券のQRコードを機械にかざすのがうまくできず、ゲートで立ち往生。3人分を1枚にまとめた搭乗券が欲しかった。更に機内では父を座りやすい通路側に座らせたい母と、どうしても窓側に座りたい父とでもめる場面もあり、離陸前から前途多難。結局往復共に父は窓側に座った。伊丹空港では長崎行きの搭乗開始直前にトイレに行かれてしまい、「高齢者が最初に乗るのに搭乗が遅れてしまう」とはらはらさせられた。

でもそんな苦労も長崎空港ビルで到着出口のドアが開いた時、目の前に立つ迎えに来た弟家族の笑顔を見た瞬間に吹き飛んでしまった。帰りのフライトでは、搭乗ゲートの係員にQRコードをかざしてもらうことで対応できたので、トラブルは空弁の箸が2膳しかなかったことぐらい。空弁の蓋の厚紙でスプーンを作って押し寿司を食べた。

ところで姪の結婚式ですが、両家親族だけの小さな宴で過剰な演出も無く、とても好感の持てる式でした。長崎の料理も全て平らげました。おいしかった。

初めて乗ったエンブラエル190型機。クラスJのシートはゆったりと座れるし、ホットコーヒーはお代わりしたいぐらいおいしい。帰りの長崎空港を離陸直後に上昇しながら大村湾上空で270度旋回。伊丹空港では市街地をすぐ下に見る低空で、左に機体を傾け旋回しながら滑走路への降下進入。どちらも俊敏な小型機（95人乗り）ならではのもの。

JALのグランドスタッフの皆さん、J-AIRのクルーの皆さん大変お世話になりました。この次は気楽な一人で空の旅を楽しみたいと思っています。コーヒーを飲みながら。

◆ちょっと豆知識◆その38

「グルコース測定機器 開発顛末記」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

お取引先の皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

平成最後のお正月を皆さまどのように過ごされたでしょうか。前職の記憶を手繰ると、大吟醸のもろみがあったりしてゆっくり過ごせたことはありませんでしたが…。

さて、昨年後半から下記のような問い合わせをよくいただきました。「タニタのグルコース計（のセンサーカートリッジ）が供給停止となるのだけど、代わりの品を何か知りませんか？」

タイミングを同じくして、血糖測定用の機器をお使いのお客様についても「終売の通知が来た。後継機を買って測ってみたけど上手く測れない。どうしたら良いか？」というお問い合わせがチラホラ…。

タンクメーカーたる当社が本来取り組むべき課題なのかは分かりませんでしたけど、「人を笑顔にする技術」が当社のキャッチフレーズですので、「困っている清酒メーカーさんがいらっしゃるのではあればひと肌脱ぐか！」ということで代替候補機に関する情報を集めてみました。

検討の結果、ある方からご紹介いただいた ForaCare 社の「ラボ グルコ」なる実験動物の血中グルコース濃度測定用機器が、清酒に含まれる物質の影響を受けにくく、また再現性も高いことを確認しました。

信頼のおける測定法との相関性も抜群ですが、安定した結果が得られる測定レンジが～300mg/dL（～0.3%）なので、基本的には測定サンプルを希釈する必要があります。

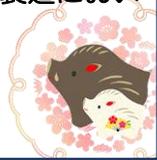
この希釈操作が分析値の正確性を決定的に左右しますので、これまで希釈操作等をしたことがない方も、今回ご紹介する機器をお使いになるのであれば必ず、希釈の手技を覚えていただく必要があります。

また、サンプルの希釈も、「0.1M リン酸緩衝液 (pH7.0)」で行う必要があります。水希釈ではそもそも測定値が出ませんでしたし、また他の緩衝液でもダメ、リン酸緩衝液でも0.1M・pH7.0 でないと正確な値が出ませんでした（全て当社にて確認済み）。

キチンと測れる条件を探すのに要した時間がひと月弱。ようやくご案内出来る運びとなりました。

聞くところによると、もろみの管理をアルコールとグルコース濃度だけで行う蔵も出て来たとか…。「そこまで来たか！」との想いを禁じ得ませんでした。既に清酒製造において「グルコース濃度を測る」という技術は不可欠なものですね。

詳細はリーフレットにて告知の通りです。ご注文をお待ちしております。



“ 神が降りた ”

“ ちよっと一息 ”

サポート・新規事業PJ 山本 知男 No.29

この便りが届く頃は正月過ぎになるとの事。毎年この時期正月らしくめでたい話題を書きたいと思うのですが、なかなか無く悩んだ挙句、やっぱり私の趣味の話になります。

先日行った演奏会での出来事です。格好いいソロがある曲を演奏する事になり、いつものソリストがその気になって練習していたのですが、家庭の事情で出られなくなりました。

さて曲を変えるかとの話も出たのですが、良い機会だからいつも2番手でやってる人にソロやらせてみるかとなりました。最初はイヤがっていた彼女も、皆からおだてられ、とうとうやる事になったのですが…、なかなか上手く出来ない。と言うかどうしても間違ったり、音が出なかったりする箇所があり、本人もかなり落ち込んだ辺りで、とうとう本番の日を迎えてしまった。さあ～どうするってなった時、指揮者が「もう何も考えるな、上手くやろうなんて思わず、思いっ切り息吸って、音出してみなさい。」って事で本番になってしまった。ステージに立った時の彼女の眼は虚ろで、こりゃマズイな～と思ったのですが、指揮者が棒を振る前に、一緒に深呼吸するようになって感じて深呼吸して、彼女も一緒に何回も深呼吸しながら「神様、神様」ってブツブツ言っていた。こっちも神様に願う感じでいよいよスタート。最初は音が震えていたけど、途中から大きな音になって来て、それからは今まで聞いた事ない位しっかりした音になって、とうとう最後まで吹き切った。終わった後の彼女の顔は放心状態、こっちも何とか乗り切ったと言う安堵となかなかやるじゃんと感じて、「良かったぞ、今までで最高だったよ。」と声を掛けたら「神が降りた、神が降りた。」とまだ放心状態のようで、顔を見たら涙流していた。こちらもついつい貰い泣きしてしまいました。

神様が降りてきたかも知れないけど、やっぱり本人も見えてない所でもかなりの努力をしていたはず。そしてもの凄い緊張の中で出した力は確実に実力となり、これからの彼女の音楽人生にも自信が付くはず。

人間挑戦すべき時は全力で努力してみる、それが大きな転換期になるかも知れない。そんな気持ちにさせてくれた出来事でした。私もいつまでも挑戦の気持ちを忘れず頑張りたいと改めて思った次第です。皆さんも今年いろんな事に挑戦してみましょ。